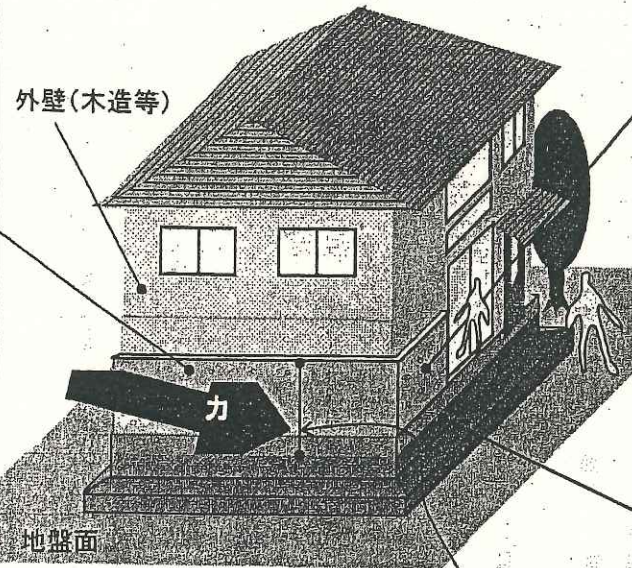


土砂災害特別警戒区域内における建築物の外壁等の構造並びに当該構造方法を用いる外壁等と同等以上の耐力を有する門又は塀の構造方法を定める件(平成13年3月30日国土交通省告示第383号)

構造方法(仕様規定)のイメージ図

●外壁の構造方法

- ①RC造とし、設計基準強度 $18\text{N}/\text{mm}^2$ 以上
- ②開口部は原則として設けない(適用除外規定有)
- ③厚さは 15cm 以上
- ④長さ 1m 当たりの縦筋の断面積の和が作用する力の大きさ等に応じて規定された数値以上
- ⑤ $\phi 9\text{mm}$ 以上の横補強筋を 30cm 以下の間隔で配筋



衝撃が作用する高さ

●控壁の構造方法

- ①RC造とし、設計基準強度 $18\text{N}/\text{mm}^2$ 以上
- ②開口部は原則として設けない(適用除外規定有)
- ③厚さは 15cm 以上
- ④長さ 1m 当たりの縦筋の断面積の和が作用する力の大きさ等に応じて規定された数値以上
- ⑤ $\phi 9\text{mm}$ 以上の横補強筋を 30cm 以下の間隔で配筋
- ⑥外壁の屋内側に当該外壁に対して垂直に設け、高さは外壁以上
- ⑦外壁接着する部分間中心距離は 4m 以下

●基礎の構造方法

- ①RC造とし、設計基準強度 $18\text{N}/\text{mm}^2$ 以上
- ②開口部は原則として設けない(適用除外規定有)
- ③立上り部分の厚さは 15cm 以上、底盤の厚さは 20cm 以上
- ④根入れの深さは 60cm 以上
- ⑤立上り部分に $\phi 12\text{mm}$ 以上の補強筋を 20cm 以下の間隔で配筋
- ⑥底盤に $\phi 12\text{mm}$ 以上の補強筋を縦横に 15cm 以下の間隔で配筋
- ⑦布基礎とする場合は底盤の幅を 60cm 以上とし、底盤に $\phi 12\text{mm}$ 以上の補強筋を配筋
底盤の長さ 1m 当たりの鉄筋の断面積の和が作用する力の大きさ等に応じて規定された数値以上

※土砂災害特別警戒区域内における建築物の外壁等の構造並びに当該構造方法を用いる外壁等と同等以上の耐力を有する門又は塀の構造方法を定める件(平成13年3月30日国土交通省告示第383号)の第二・一・イ号の場合のイメージ図です。